

第3学年1組 国語科学習指導案

令和2年9月16日（水）5校時

- 1 単元名 パラリンピックについて宍道小のみんなに教えてあげよう
～パラリンピックのリーフレットを作ろう～
教材名 「パラリンピックが目指すもの」 東京書籍3年下

2 単元の目標 （下線は重点指導事項）

- （1）分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、出典の示し方、事典の使い方を理解し使うことができる。〔知識及び技能〕（2）イ
（2）目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C（1）ウ
（3）言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

3 単元で取り上げる言語活動

図書資料から情報を得て、分かったことをリーフレットにまとめて紹介する。

（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕C（2）ウ）

【本単元で身につけさせたい情報リテラシー】

（I－3）要約する

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、出典の示し方、事典の使い方を理解している。 (2)イ	①「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。 C(1)ウ	①学習の見通しをもち、進んで中心となる語や文を見付けて要約したり、図書資料から情報を得たりして、分かったことをリーフレットにまとめて紹介しようとしている。

5 単元について

（1）教材について

本単元の重点指導事項は、学習指導要領における〔思考力、判断力、表現力等〕の「C 読むこと」（1）ウ「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。」である。ここでは、教材文の内容と、パラリンピックについて図書資料を使って調べ分かったことを簡単な

リーフレットの形式にまとめて紹介する言語活動を通して、内容の中心となる語や文を見付けながら文章を読み、書かれていることを要約する力をつけることをねらっている。要約する際には、〔知識及び技能〕（２）イの「必要な語句を書き留める」力が必要であり、また、図書資料から情報を得る際には、同じく（２）イの「情報の分類の仕方や、出典の示し方、事典の使い方」の力も必要となる。これまでに学習で身につけたことも使いながら、技能の習得も狙っている。

本教材は、パラリンピックの概要や理念について説明し、水泳とボッチャという２つの具体的な種目を紹介する文章である。教材文は、「パラリンピックとは何か」「パラリンピックの競技にはどんなものがあるか」「パラリンピックが大切にしているものは何か」「パラリンピックが目指すものは何か」という４つのまとまりから文章が組み立てられている。大事なことや伝えたいことが読み手に伝わりやすい構成で書かれているため、中心となる語や文を見付けて要約する力をつけるには適した教材であると考ええる。

今年の夏に開催予定であったオリンピック・パラリンピックであるが、１年の延期となったため、最近では話題としてメディアで取り上げられることが少なくなってきた。しかし、来年の開催に向けて詳しく知り、みんなに知らせようというはたらきかけによって、興味や関心をもって取り組むことができる題材であると考ええる。

（２）児童について

省略

（３）指導にあたって

本単元では、「パラリンピックについて宍道小のみんなに教えてあげよう」というゴールを設定し、リーフレットにまとめて紹介する言語活動を行う。そのために、まず教材文「パラリンピックが目指すもの」の学習を通して、学級みんなでリーフレットに載せる要約の文章を考える。次に、その時に学習した「内容の中心となる語や文を見付けて要約する力」を使って、今度は自分の調べたいパラリンピックの情報を図書資料から見付け、要約していく。最後にリーフレットにまとめて完成させ、学校図書館に置いてもらうという流れを設定した。

第一次の導入にあたっては、興味をもって取り組めるよう、パラリンピックの競技の様子、選手の様子、支える人たち、シンボルマークなどの写真を幅広く提示するとともに、パラリンピックについて書かれている図書の紹介も行う。これらの図書資料は教室に置いておき、子どもたちが並行読書できるようにしておく。また、リーフレットのイメージをもたせるために、これまでの３年生が作成した「はたらく犬の訓練」についてのリーフレットを見せ、学習への関心を高める。この時、リーフレットという限られた紙面ではたくさんのことを書くことができないので、要約が必然だと感じ取らせたい。そして、リーフレット完成までの過程や方法などを示して学習の見通しをもたせ、意欲的に取り組めるようにする。

第二次の教材文での学習では、自分が調べたことをリーフレットに上手くまとめることができるように練習しようと投げかけ、学級みんなで教材文「パラリンピックが目指すもの」の要

約をしていく。段落ごとに書かれていることのおおまかな内容をつかんだ上で、中心となる語や文を探しながら要約を行う。このとき手がかりとして、第一次で学習した文章構成の4つの観点がそれぞれの要約文の見出しになることを押さえておく。そして、要約するときにポイントとしたこと（「要約のポイント」）を子どもたちと確認しながら進めていく。

教材文の学習を進めていくうちに出てきた調べたいことや、並行読書の中で興味をもったことなどはノートにメモをさせておき、第三次の調べる活動につなげていく。

本時では、①～④段落である「パラリンピックとは何か」の内容について要約を行う。前時で学習した各段落の内容を基に考えさせる。まず音読を行い、中心となる語や文に線を引かせるが、③・④段落がパラリンピックについての説明であることを学習しているので、考えやすいのではないと思われる。

その後、線を引いた中心となる語や文を発表させる。取り上げる必要のない語や文が出てくることがあると思われるが、線を引いた理由も併せて聞くことによって、発言者の思いを受けとめ、みんなで吟味していきたい。また、電子黒板で教材文を提示し、線を引いたところが視覚的に捉えやすいようにしておく。

要約した文章は、ワークシートに記入させる。書き出しを「パラリンピックは、」とし、120字以内で書くよう制限して、短くまとめることを意識させたい。要約の文章は発表させ、学級全体で練り上げてリーフレットに書く文章としていくが、その文章だけが正解ではなく、落としてはいけない中心となる語や文が入っていれば、それぞれの要約の文でよいことを伝える。このことは単元を通し、継続して伝えていきたい。

最後に、どのように要約していったかを振り返り、「要約のポイント」としてまとめていく。

子どもたちから出た意見を誰もがわかる短い言葉に言い換え、今後さまざまな場面で要約していくときの手がかりとして残していきたいと考えている。

第三次では、教材文の学習で見つけた「要約のポイント」やリーフレットづくりの体験を活かして、パラリンピックについて調べ、リーフレットにまとめていく。目次や索引を使って自分が調べたい内容が書かれている図書資料から探し、中心となる語や文を見つけて情報カードにメモしていく。調べた後は、情報カードを整理して取り上げる内容を決め、リーフレットを作っていく。情報カードにメモするとき、リーフレットにまとめるとき、このどちらの活動も要約する力を使っていくこととなる。

第四次では、作り上げたリーフレットを学級で読み合って感想を交流し、振り返りの場としていく。この際には、見た目のきれいさだけでなく、分かりやすく書かれ、読む人に伝わる要約ができているかという点に注目させる。また交流会の後、リーフレットは図書館に置き、全校のみんなにパラリンピックの紹介を行うことで、学習の締めくくりとする。

6 単元の指導計画と評価計画（全13時間 本時4／13）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準（評価の観点・方法）
一	1	○パラリンピックに関心をもつ。 ○学習課題と学習の流れを確かめる。	・パラリンピックについて調べ、リーフレットにまとめたという思いを引き出すために、写真やリーフレットの見本を提示するなどして、学習への意欲を高め、学習の見通しがもてるようにする。 ・並行読書をしていく中で見つけた調べてみたいことを、ノートにメモしておくよう指示する。	
二	2	○教材文を読み、文章全体の構成をつかむ。 ○筆者が伝えたいことは何かを考える。	・段落ごとの内容をとらえることによって、文章が4つの観点で書かれていることを押さえる。 ・題名に注目させ、筆者が最も伝えたいことはどの段落に書いてあるかを見つけさせる。	
	3	○本文を読み、段落ごとの内容をつかむ。	・文章全体の4つの観点がそれぞれリーフレットの見出しになることを確認しながら、要約に取り組ませる。	
	4	○段落の中心となる語や文はどれかを考え、文章を要約してまとめる。	・要約した文章の中に、落としきではない中心となる語や文が含まれているかどうかを確認しながら進めていくよう助言する。	【思考・判断・表現①】 ワークシート・リーフレット ・中心となる語や文の記述の確認 ・要約した文章の確認
	5	○要約した文章をリーフレットに書く。		
	6	○どのように要約していったかを振り返り、「要約のポイント」としてまとめていく。	・「要約のポイント」をまとめていくことにより、要約するときの手がかりとして残いく。	【主体的に学習に取り組む態度】 観察 ・友だちの発言を通して自分が要約した文章を見直している様子の確認
	7			

三	8	○パラリンピックについて調べることを決める。	・これまでの学習でノートにメモしてきた中から、自分がみんなに教えてあげたいことを選ぶよう指導する。	【主体的に学習に取り組む態度】 <u>観察</u> ・図書資料から情報を得ている様子の確認
	9 10	○パラリンピックについて知りたいことを調べ、情報カードにまとめる。	・図書資料を読んで調べさせ、中心となる語や文に着目させながら必要な情報を書き出すよう助言する。	【知識・技能①】 <u>情報カード</u> ・必要な情報が書き出されているかどうかの確認 ・出典の書き方の確認 <u>観察</u> ・情報カードの分類の仕方の確認
	11	○集めた情報を分類・整理し、リーフレットに書く項目を決める。	・情報カードを内容ごとに仲間に分けて整理し、その中からリーフレットに書く項目を決めるよう指導する。	【思考・判断・表現①】 <u>ワークシート・リーフレット</u> ・中心となる語や文の記述の確認 ・要約した文章の確認
	12	○情報を分かりやすく要約する。 ○要約した内容をリーフレットにまとめる。	・「要約のポイント」を参考に、中心となる語や文を落とさないように要約するよう助言する。	
四	13	○リーフレットを読み合い、感想を交流する。 ○単元全体の活動を振り返り、できるようになったことを確かめる。	・友だちのリーフレットを見て、分かりやすく要約できているかどうかに着目させて、感想を伝え合うようにする。 ・本単元の目標に即して、できるようになったこと、今後の学習や生活の中で活かしていきたいことについて書くように助言する。	

7 本時の学習

(1) 目標

①～④段落全体の中心となる語や文はどれかを考え、文章を要約してまとめることができる。

(2) 展開 (4 / 13 時間)

時	学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点 (・) と支援 (◎)
3 分	1 本時のめあてと流れを確認する。 「パラリンピックとは何か」の内容を要約しよう	・ 前時に学習した①～④段落ごとの内容を基に、要約して短い文章で表すことを押さえる。
7 分	2 「パラリンピックとは何か」の内容を要約する。 ○①～④段落を読み、中心となる語や文に線を引く。 ・「パラリンピックは、さまざまなしょうがいがある人たちが出場する、世界最大のしょうがい者スポーツの祭典です。」 ・「オリンピックとほとんどかわらないルールのもものもあります。」 ・「ルールの一部をくふうしてかえることで、しょうがいのある人がさんかできるようにしているものもあります。」 ・「パラリンピックにしかないきょうぎもあります。」	・ ③・④段落にパラリンピックのことが書かれていることを確認してから取り組ませる。
10 分	○中心となる語や文を全員で確認する。 ・「同じところに線を引いたよ。」 ・「そこに引いていいのかな。」 ・「そこには引かなくてもいいのでは。」	・ 子どもたちとの話し合いの中で、中心となる語や文かどうかを吟味していく。 ◎線を引いたところが視覚的に捉えられるように、電子黒板で教材文を提示する。
5 分	○要約した文章をワークシートに書く。	・ 書き出しを「パラリンピックは、」とし、短くまとめることができるように、字数を 120 字以内に制限したワークシートを用いる。 【思考・判断・表現】ワークシート 中心となる語や文を見付け、文章を要約している。

5分	○要約した文章を発表し合い、リーフレットに書く文章を考える。	・要約の文章の中に、次の語や文が含まれていればよいことを伝える。 「さまざまなしょうがいのある人たちが」 「世界最大のしょうがい者スポーツの祭典」 「ルールの一部をくふうしてかえる」 「パラリンピックにしかないきょうぎ」
10分	○「要約のポイント」をまとめる。 ・短い文章で書く。 ・中心となる語や文を落とさずに書く。 ・言葉や文をつけたす。 ・いらぬ言葉や文はとる。	・子どもたちから出た意見を誰もがわかる短い言葉に言い換え、今後要約の学習で使っていける「要約のポイント」してまとめていく。
5分	4 本時の学習を振り返る。 ・要約するのは難しい。 ・「要約のポイント」が分かってよかった。 ・「要約のポイント」をもっと見付けたい。 ・他の勉強のときにも使えそう。	・要約についての振り返りや感想を取り上げ、次時の意欲につなげる。

(3) 評価

十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	努力を要する状況への手立て
中心となる語や文を落とさないようにし、よりよい要約の文章になるように考えている。	線を引きしたことから、中心となる語や文を落とさないように要約している。 ☆書いた要約の文章を読み返し、書き直すところはないかを考えさせる。	「～なパラリンピック」という文章につながる箇所を探すように促す。

(4) 研究の視点

○中心となる語や文を学級全体で確認したことは、要約した文章を考える上で、有効であったか。

【学校図書館活用に関する視点】

○本単元導入時の写真やリーフレットの提示や並行読書は、子どもたちの興味づけや意欲喚起につながっているか。

8 研究協議の概要

参加者	校内 18名、 校外 16名 計 34名
授業及び 研究協議 の概要	(授業の概要) パラリンピックについて調べたことをリーフレットにまとめて宍道小学校のみんなに紹介するという言語活動を設定し、教材文を読んで中心となる語や文を確認しながら、リーフレットに載せる要約の文章を考えた。 (研究協議の概要) ・ 単元を通してつけた力が明確であり、本時は児童に要約する力を身につけさせたいという考えのもと、読み取ることに絞った授業であった。 ・ 児童は、中心となる語や文をすぐに見つけることができたが、そこから要約の文章にしていくことは難しく、手立てを考える必要があった。 ・ 本時のめあてを『パラリンピックとは何か』の内容を要約しよう」としてしまったため、児童はパラリンピックの説明をすればいいと考え、要約をするという意識が薄れてしまったのではないかと。 (指導助言) ・ 本時の学習では図書資料を使っの活動はなかったが、単元の導入でパラリンピックの本を紹介し、いつでも手に取れるように環境を整えていることが、子どもたちの学習意欲にもつながっている。このように、単元に関する本を紹介し、並行読書をすることは、国語に限らず、全ての教科で有効なので、ぜひ、実行してほしい。 ・ 授業で資料を使う際には、単元を考える段階で、どこでどういう目的で資料を使っていきたいのかを、学校司書と話し、連携を図っておくこと、事前に担任が必ず目を通しておくことが大切である。